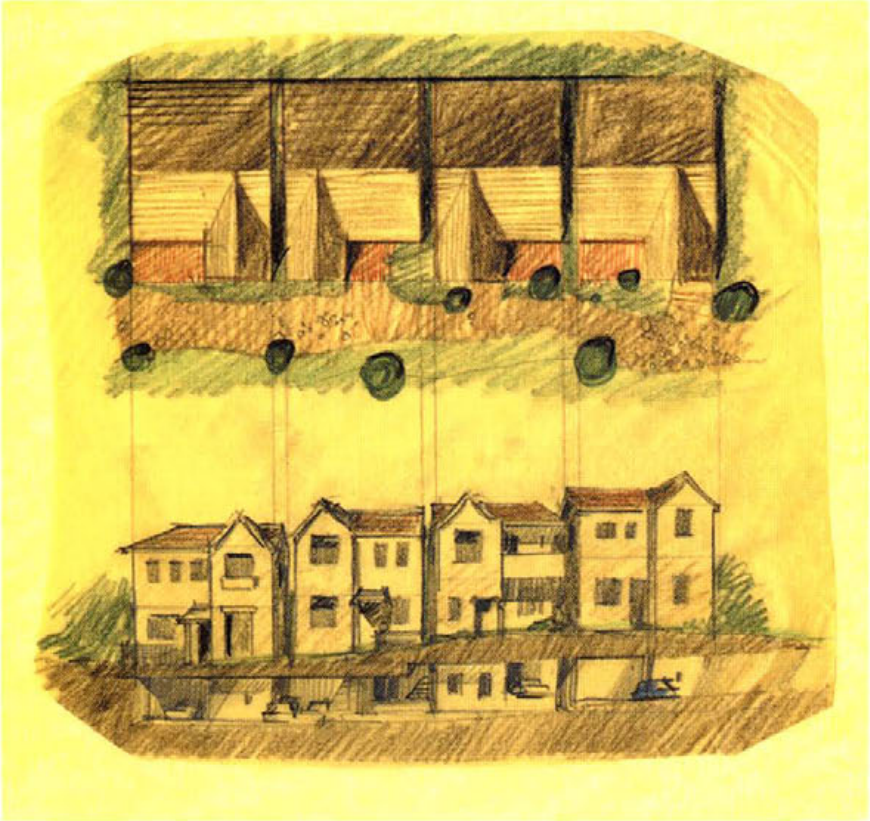
# 勘で描く パースのコツ 2

アナログ技法とデジタルの使い方



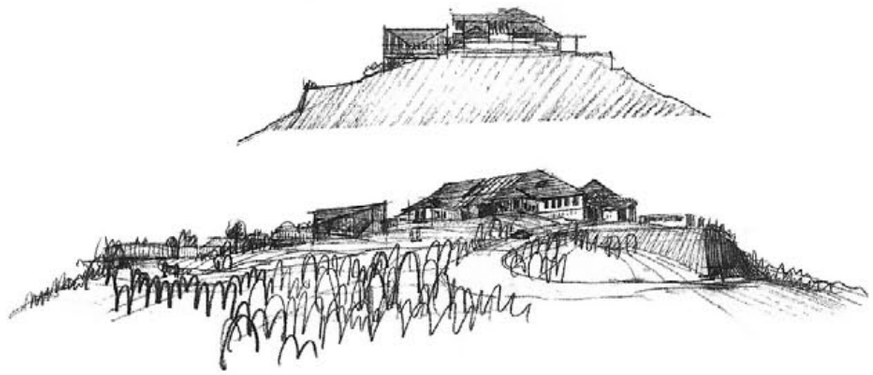
田中英介 著

彰国社

## はじめに

既刊「勘で描くパースのコツ」は数学的、図学的になりがちなパースについての解説を、いわゆるプロが何気なく使う「勘」を大切にしながら描く「コツ」として紹介しました。
本書はそこからさらに深めて、応用への発展を試みます。スケール感覚の習得や身近な道具の応用など、パース技法は建築界のみならずさまざまな分野で活用できる表現手段です。特にコンピュータ時代の現在では、モニタ画面上でのスケール感覚、奥行づくりのセンスは不可欠なものとなってきています。そこで本書では、イメージを広げることができる手描きのアナログ技法のよさとデジタル機器においての加工の便利さとをクロスオーバーさせる技法なども紹介しています。
読者諸氏が「技能の習得は、構えず、気軽に取り組めばよい…」という心持ちで、自信をもってパースに取り組んでくれることを期待しています。

田中英介



目次

## 第１章　描くための基本的な技能


１－１　道具と用具を選ぶコツ
１－１－１　筆記具と修正ペン …… 08
１－１－２　線を引く道具 …… 09
１－１－３　カラーリング（着彩）の道具 …… 10
１－１－４　用紙 …… 11

１－２　表現方法の選択のコツ
１－２－１　雰囲気を表現する …… 12
１－２－２　空間の規模を表現する …… 14
１－２－３　相互関係を表現する …… 16

１－３　寸法感覚を発揮させるコツ
１－３－１　目測の正確さを信頼する …… 18
１－３－２　最初は必ず水平線 …… 20
１－３－３　奥行をつくる …… 22
１－３－４　パースラインをつかむ …… 24

１－４　早く描くためのコツ
１－４－１　三角定規１本で水平、垂直、パースラインを描く …… 30
１－４－２　下書きと清書 …… 34
１－４－３　コピー機と修正ペンと切り貼りの利用 …… 36

１－５　立体感表現のコツ
１－５－１　明るさの３次元 …… 40
１－５－２　手前の情報は念入りに表現 …… 42
１－５－３　手前と奥の忠実な関係 …… 44
１－５－４　陰影の習得 …… 48

１－６　タッチ表現のコツ
１－６－１　ラインドローイング …… 56
１－６－２　軟らかい鉛筆を使う …… 60
１－６－３　指、手首、腕のストローク …… 62
１－６－４　フリーハンド …… 64

１－７　点景表現のコツ
１－７－１　人物 …… 66
１－７－２　車 …… 68
１－７－３　樹木 …… 70

１－８　カラーリングのコツ
１－８－１　デザインマーカーの色グループ …… 76
１－８－２　デザインマーカー描法の習得 …… 77
１－８－３　色鉛筆の選択と特徴 …… 80
１－８－４　色鉛筆描法の習得 …… 81
１－８－５　着彩方法の混合 …… 82


## 第２章　デジタル機器との共存


２－１　入力機器とコンピュータを利用するコツ
２－１－１　スキャナとフォトショップ …… 96
２－１－２　デジカメのデータと合成する …… 100
２－１－３　手描きパースの取り込みと加工 …… 106

２－２　出力データのタッチアップのコツ
２－２－１　プリンタ出力とアナログ技法 …… 110
２－２－２　再コピー、再スキャン …… 114


## 第３章　プレゼンテーション


３－１　上手に見せるコツ
３－１－１　画面構成（レイアウトセンス） …… 118
３－１－２　プレゼンテーションの実例 …… 120

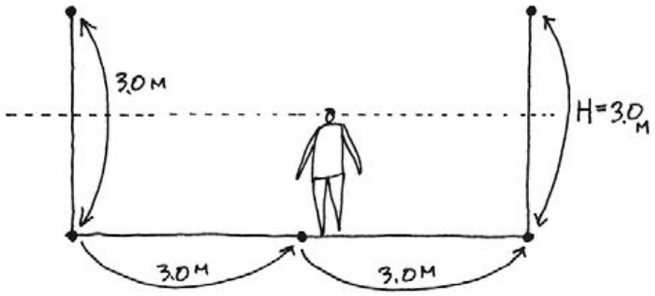
３－２　デジタルプレゼンテーションのコツ
３－２－１　作品のデジタル情報化 …… 124
３－２－２　スライドショーからムービー化まで …… 126

## 1-3-3 奥行をつくる

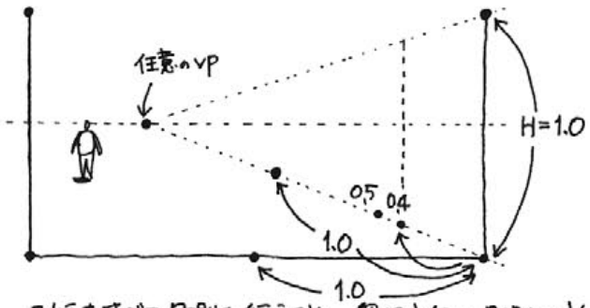
この図法については既刊でも詳しく紹介していますが、さらに具体的に、しっかり身につけておく必要があるので表現を変えて解説します。パースはご存知の通り、立体を「それらしく見せる」技法です。
２次元（縦、横）に、奥行が加わって３次元になるのです。

この奥行づくりをマスターすればほとんどのパースは今までより楽に描けるはずです。経験からくる勘として、最初に設ける奥行は正面のまともに測った寸法のほぼ40%（俗にいうところの半値八掛け）と覚えておきます。

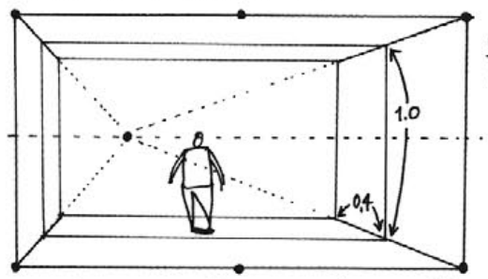
計測は定規ではなく人→1.5M、その何倍という具合に。




奥行を得るコツは高さ、又は巾の寸法の約40%とする。
H=1.0とした場合、VP方向の奥行は0.4となる。

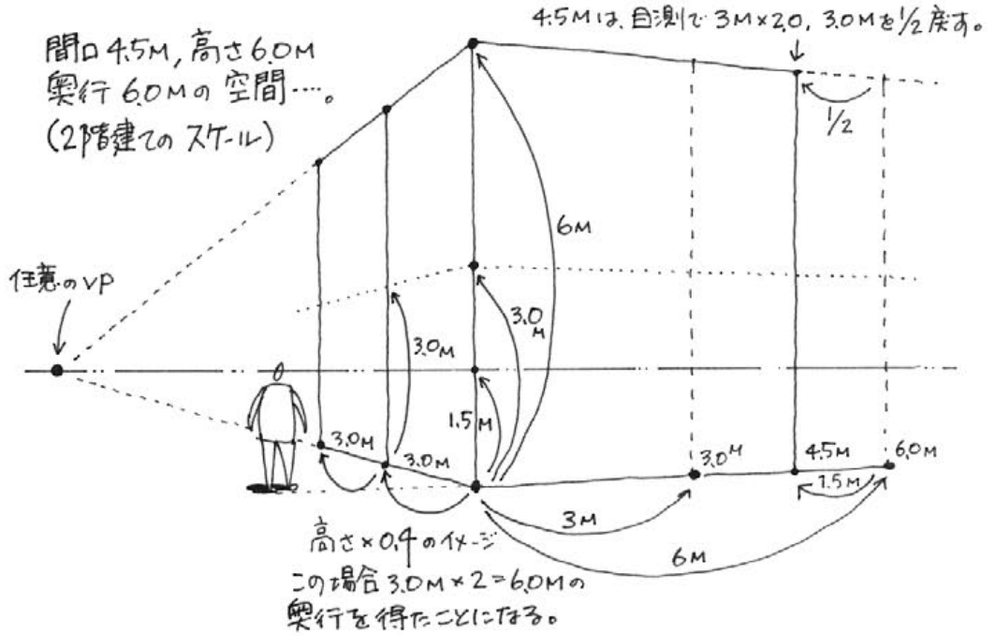


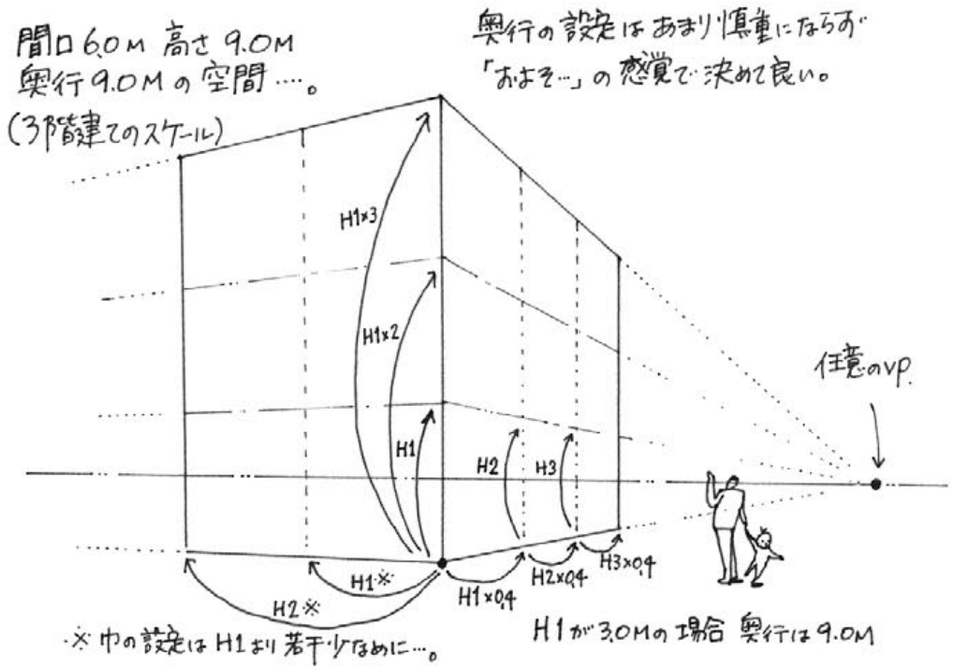

これらもすべて目測で行うこと。奥行方向に目測で1/2=0.5を得て、手前に少し戻すイメージ。




奥行づくりはVPより遠い面で…。

このワイヤフレームは高さ3.0M、巾6.0M、奥行6.0Mを表す。



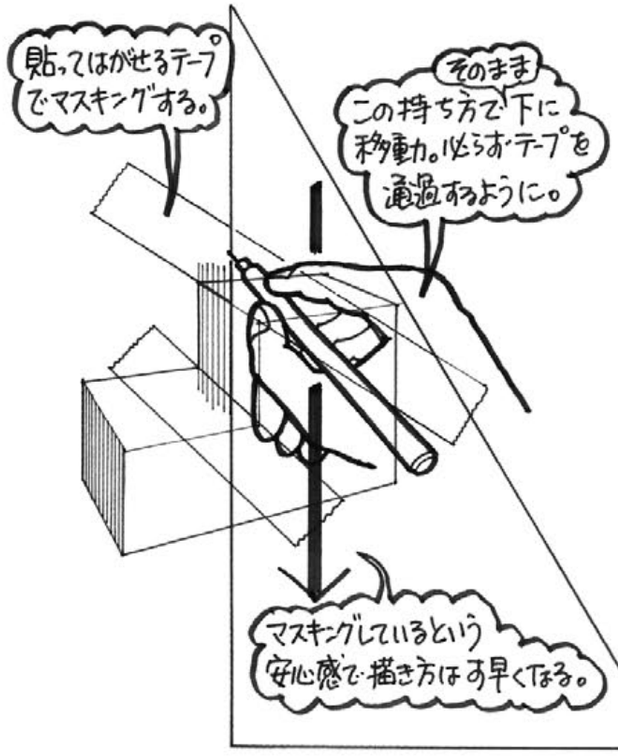
# 1－6　タッチ表現のコツ

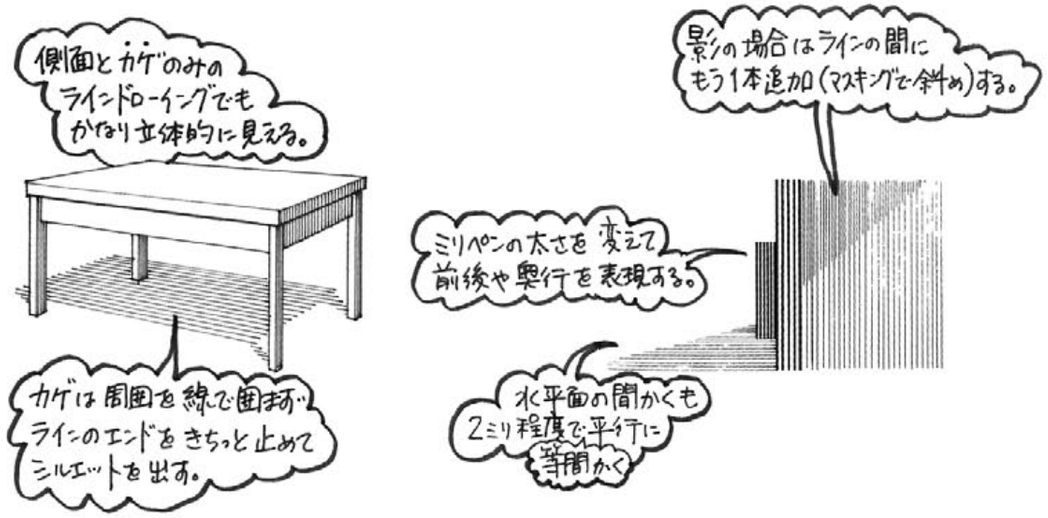
## 1-6-1　ラインドローイング

タッチは、パースにメリハリや味わいを与える大切な技法です。端的にいうと強一弱、濃一淡、太一細、早一遅です。
なかでもラインドローイングは縦横斜めなどの線を組み合わせて描く手法で、タッチを会得するのに必要なトレーニングでもあります。

軒裏や地面などの水平面には水平方向（パースライン方向）に、柱など垂直方向の面には垂直方向のラインドローイングで陰影や側面の奥行を表現します。

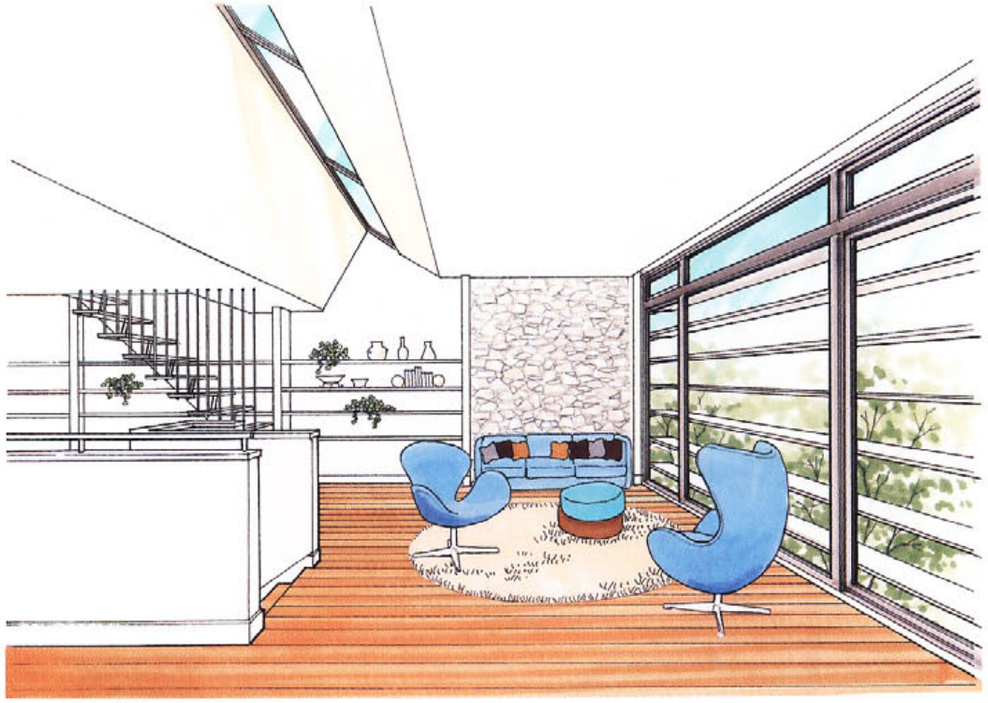
素早く描くと、ミリペンでも強弱やスピード感が出て生き生きした表現になります。そのためには、テープなどでマスキングして「はみ出す」ことを恐れずに、ペンを持った手と腕を上から下に素早く移動させます。このときペンがテープを通過するようにします。

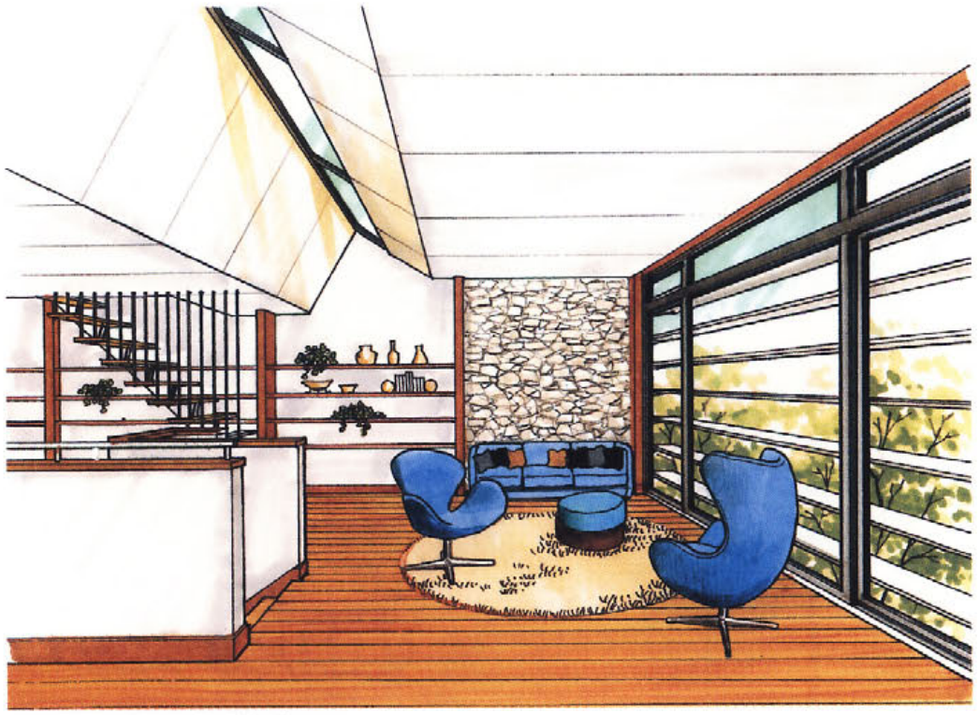


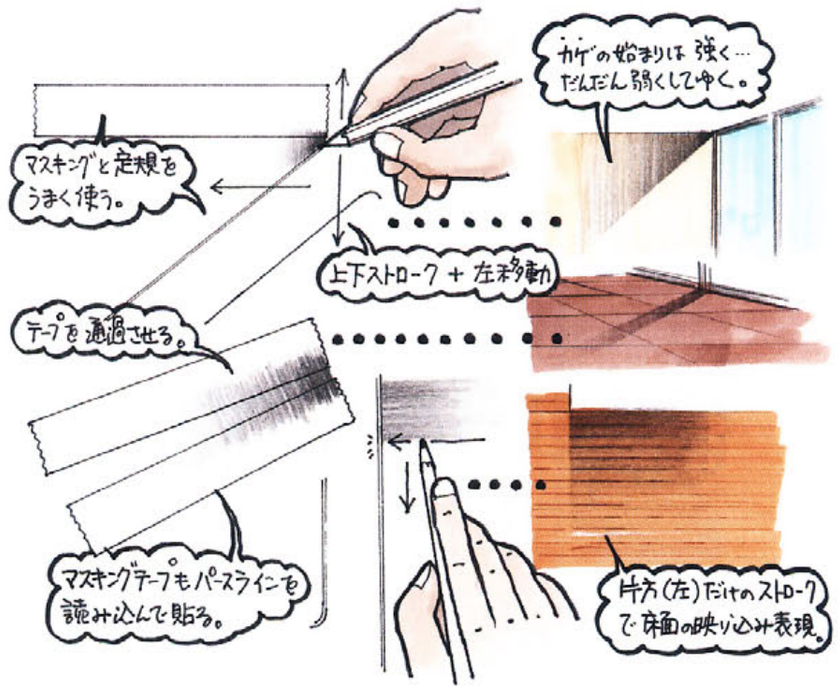
**インテリア**

広い床面や壁面にのみマーカーを使い、色鉛筆は両端から中央に投げ出すようにストロークさせタッチを出します。









陰影や小さなもの、細かい部分はなるべく色鉛筆を使います。色鉛筆の黒は最終的に画面を引き締める効果があります。